

5 歯・口腔の健康

(1) 現状と課題

○小児のむし歯数は減少し、全ての歯が健康な人が増加しています。

- ・ 乳歯及び永久歯のむし歯数は減少し、むし歯のない人の割合は増加しています。
- ・ 令和元年の12歳児一人平均むし歯数は0.33本、むし歯有病者率は15.6%です。一人平均むし歯数は全国一少ない状況ですが、市町村ごとにみると地域差がみられます。
- ・ 3歳児の9割、12歳児の約8割に全くむし歯がない一方で、むし歯を多く持つ子どもがいる状況にあります。

○8020*達成者は増加傾向です。

- ・ 80歳で20本以上の歯を保つ人の割合は4割弱の状況です。一人平均現在歯数の状況から、経年にみても残存歯数が増加しており、今後、本県では、歯を多く有する高齢者が増えることが推測されます。

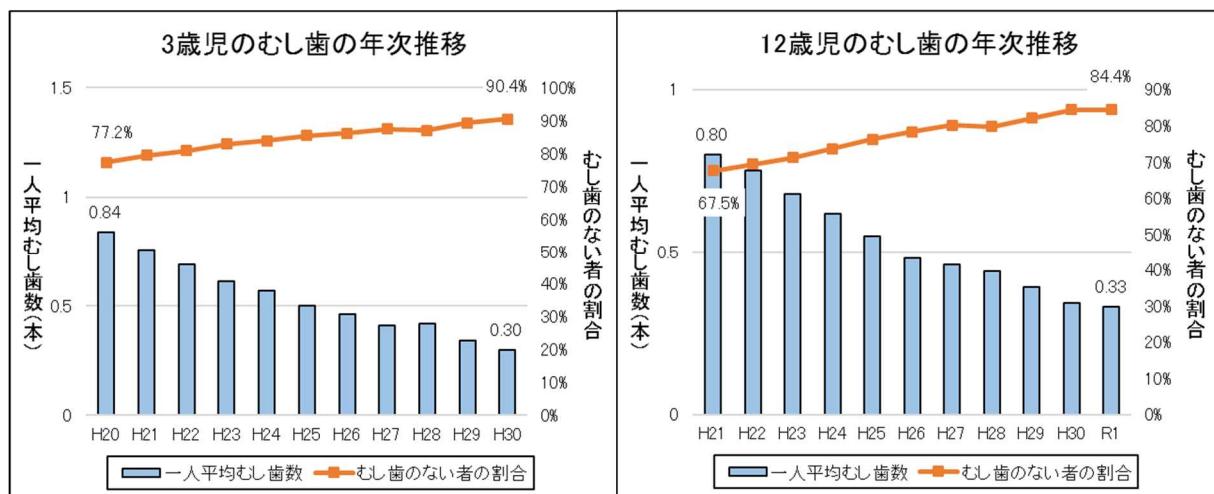
○成人期の取組が不十分です。

- ・ 法的に裏付けのない成人期の取組が遅れており、個人の努力に依存するところが大きく、結果として高齢期に歯が失われてしまうことが課題となっています。

○歯と口のケアのために歯科受診をする人の割合は低い状況です。

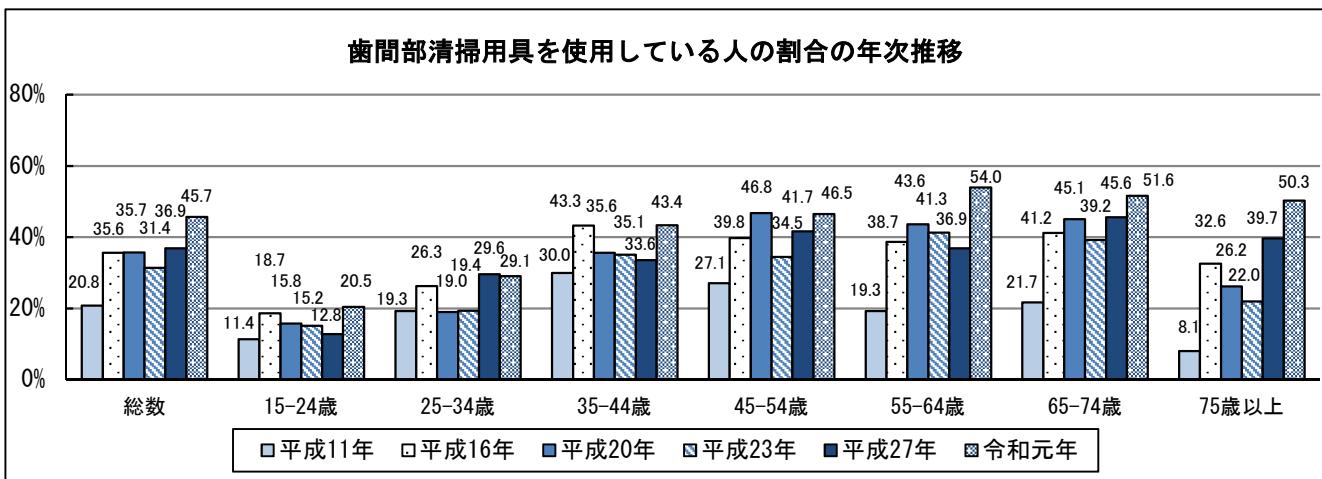
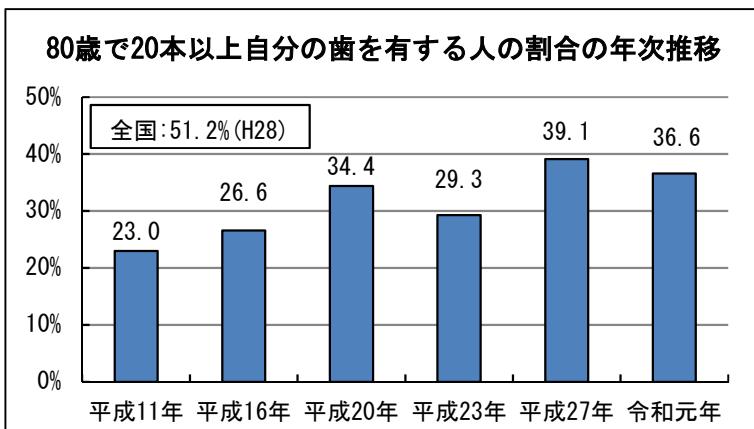
- ・ 過去1年間に定期的に歯科健康診査を受診した人の割合は、50.4%と約半数の状況であり、市町村や企業等により、取組に地域差がみられます。
- ・ 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合は25.8%と、まだまだ少ない状況です。
- ・ 歯間部清掃用具を使用している人の割合は経年にみると増加傾向ですが、年齢別にみると10～20歳代の使用率が低い状況です。

(2) 主要データ [母子保健事業報告、歯科疾患実態調査(小児)(県)、県民健康・栄養実態調査、歯科疾患実態調査(国)]



* 8020 (ハチマルニイマル)

厚生労働省と（公社）日本歯科医師会が提唱している、「80歳になっても自分の歯20本以上保とう」という運動



(3) 施策の展開・取組

【目指す姿】

歯や口の健康が全身の健康につながることを意識し、定期的な歯科健診や口腔のケアを受ける等、歯・口腔の健康づくりに取り組みます。

【施策・取組】

■ 様々な場面や年代における歯科保健の取組の推進

〔県民の意識・行動の定着の支援〕

○ 県民一人ひとりが、歯・口腔の健康は全身の健康につながることを意識し、要介護状態になる前から、望ましい保健行動（定期的な歯科受診等）を習慣化できるよう、県民の主体的な参加・協働を促しながら支援します。

- ・ 「にいがた健口文化推進月間*」や健康づくり県民運動における普及啓発の推進
- ・ 子どもの頃から望ましい口腔衛生習慣や食習慣の定着を図るため、保育所や学校等における普及啓発を促進
- ・ 生涯にわたり歯・口腔の健康を維持するため、かかりつけ歯科医を持ち定期的な歯科健診や口腔のケアを受けることの必要性を普及
- ・ 市町村や企業、地域組織等と連携した住民主体の歯科保健啓発活動の促進

* にいがた健口文化推進月間

新潟県歯科保健推進条例第13条に定められている月間（11月1日から11月30日まで）で、歯・口腔の健康づくりの習慣化を図り、これを将来の世代に伝えていくことを目的としている。

〔リスクの高い人への支援による格差縮小〕

- 障害者、要介護者等、歯・口腔に問題が起きやすい人が、生涯にわたり歯・口腔の健康を維持できるよう支援します。
 - ・ むし歯になりやすい子どもや障害者等のため、学校等におけるフッ化物利用を促進
 - ・ 生活習慣病予防のため、よく噛んで食べる等の歯科保健指導を充実
 - ・ 高齢者のオーラルフレイル*予防のため、市町村等における口腔機能向上の取組を促進

■ 歯・口腔の健康づくりに向けた環境整備

〔身近な地域の歯科保健医療サービスの整備〕

- すべての県民が、学校やかかりつけ歯科診療所等、身近な地域で歯科保健医療サービスを受けやすくなるよう環境を整備します。
 - ・ フッ化物利用を中心としたむし歯予防対策の推進
 - ・ 青少年期から切れ目がない対策のため、中学校や高等学校、大学、企業等における歯科健診・歯科保健指導等の取組を促進

(4) 指標

| 評価指標項目 | 現状値 (R1) | 目標値 (R6) | 考え方(根拠) |
|---|-------------|-------------|----------------------|
| 80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合 | 36.6% | 40% | 健康にいがた21(第2次)の目標値を継続 |
| むし歯のない12歳児の割合 | 84.4% | 90% | これまでの傾向を踏まえて設定 |
| フッ化物洗口を行っている児童・生徒の割合 | 74.2% | 80% | これまでの傾向を踏まえて設定 |
| 過去1年間に歯科健診を受診した人の割合(20歳以上) | 50.4% | 55% | 健康にいがた21(第2次)の目標値を継続 |
| 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合(15歳以上) | 25.8% | 30% | これまでの傾向を踏まえて設定 |
| 歯間部清掃用具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用している人の割合(15歳以上) | 45.7% | 50% | これまでの傾向を踏まえて設定 |

* オーラルフレイル

口に関するささいな衰えを放置したり、適切な対応を行わないままにしたりすることで、口の機能低下、食べる機能の障害、さらには心身の機能低下まで繋がる負の連鎖が生じてしまうことに対して警鐘を鳴らした概念。